

K0-011

会場：C513

時間：6月5日 12:00-12:15

原生代海洋性島弧とロディニアの成長：南アフリカナタル帯の構造発達史

Proterozoic oceanic arc and growth of Rodinia: Tectonic evolution of Natal Metamorphic belt, South Africa

有馬 眞[1]

Makoto Arima[1]

[1] 横国大・教育人間科学

[1] Geolo. Instit. Yokohama Natl. Univ.

<http://chigaku.ed.ynu.ac.jp/arimaken/arimaken.html>

Natal 帯は、Kaapvaal クラトンの南側を縁取る変動帯で、Rodinia が誕生した 11 億年前の周東南極変動によって形成された一次大陸地殻と考えられている。Tugela 帯は、角閃岩など塩基性～超塩基性の火成岩起源変成岩が卓越し、それらに海洋性島弧起源と考えられる Kotongweni トーナラル岩が貫入している。貫入母岩である Manyane 角閃岩は伊豆弧低K-ソレライトに類似する化学的特徴を示す。Mandleni ナップには、海洋島玄武岩と考えられる角閃岩が分布する。Tugela 帯は従来考えられてきた海洋地殻起源オフィオライトではなく、海洋性島弧、海洋島など起源の異なる海洋性テレーンが次々と衝突してできた付加体であると結論された。